

社会医療法人小寺会 佐伯中央病院 広報誌



整形外科学会研修施設に認定された今日、多岐にわたる
整形外科の手術を行い、地域医療の発展に貢献していきたい

整形外科医 小寺 隆三

平成25年8月より手術室を本格的に開設し、早2年になります。整形外科の診療は、田辺医局長、高山部長と私の3人体制で行っており、これまでの手術件数は500例ほどです。

大腿骨頸部骨折を初めとした骨折や人工関節置換術など多岐にわたる整形外科の手術を行っております。他院ではあまり行われていない脊椎疾患に対しても手術適応があれば、積極的に手術を行っております。

手術室には術中CT撮影を可能とするX線透視装置など、最新鋭の設備を導入しています。通常であれば一旦全身麻酔を覚まして術後CTを検査室まで撮影に行きますが、術中CTの導入により、全身麻酔を継続してCTを撮り、問題がない事を確認して手術を終える事ができます。

また、これまでの診療が認められ当院は日本整形外科学会研修施設に認定されております。

今後、日本は高齢者社会を迎え、これに伴い運動器の障害も増加していきます。日本整形外科学会では、運動器の障害による移動機能の低下した状態を表す新しい言葉として「ロコモティブシンドローム（以下ロコモ）」を提唱し、推定患者数は4700万人とされています。

ロコモは「寝たきり」や「要介護」の主要な原因です。そのため当院では予防、早期発見・早期治療に努めています。これからも日々研鑽し、地域医療の発展に貢献していこうと思います。

知る・考える

骨粗しょう症とは

骨粗しょう症は、骨が構造的にもろくなって、骨折しやすくなる病気です。



正常な骨

健康な人の骨は密度が高い



骨粗鬆症の骨

骨粗しょう症の人の骨はスカスカでもろい

高齢化社会を背景に、骨粗しょう症に起因する、せい弱骨折を起こして受診する患者さんは増加傾向にあり、一度骨折してしまうと再骨折のリスクは2倍以上になります。

骨粗しょう症は女性に圧倒的に多い病気です。閉経を迎える50歳前後から骨の量が急激に減少し、60歳代では2人に1人が骨粗しょう症と言われています。

しかし、症状が出ない為「沈黙の疾患」と呼ばれ、80%の人が未治療と言われています。

女性は、閉経後受診して骨密度を測定してみましょう。骨粗しょう症は早く見つけて、薬を飲んだり、注射をすることで骨折を防ぐことができます。

気になる方は、骨密度検査を受けてみませんか？

さらに当院では、骨密度測定の結果を受けて、必要がある場合は、**お薬を飲んで骨の量を維持して骨折を予防する方法**、又は**注射によって骨を作り、骨の質や量を上げ骨折を予防する方法**をご提案させていただいています。生活指導や栄養指導、運動指導などについても、それぞれの患者様に合わせて、専門スタッフが改善に向けて、サポートさせていただきます。

詳しくは、お近くの外来看護師までお問い合わせ下さい。



腰椎と大腿骨近位部では、DXA（デキサ）法により正確に測定します。



フォルテオ…毎日1回自己注射します。(2年間)
簡単ですが、当院で詳しい指導をします。



テリボン…週に1回当院で注射をします。(72週間)

部門紹介



臨床検査部

医師が病気を診断し治療していくためには、患者様のからだの状態を知らなければなりません。

からだの状態を知るためには、それにまつわる様々なサインを確認していくことが大切です。

この様々なサインを確認するために診察がおこなわれ、それらを確認するために臨床検査がおこなわれます。

当院の検査技師は、超音波検査技士有資格者や糖尿病療養指導士など複数の資格を取得しているメンバーが揃っています！皆様が安心して検査が受けられるよう、日々励んでる検査部門ではどのような流れで業務を行っているのでしょうか、さっそく聞いてみました！

臨床検査の仕事の幅は広く、大きくわけて「検体検査」と「生理機能検査」に分けられます。検体検査では、血液、尿、便、組織などの検体を採取し、化学的・形態学的に検査します。生理機能検査では、心臓の動きを電氣的にとらえて波形として表したり、からだの内部の状態を、超音波を利用して画像として観察します。

当院の臨床検査部は臨床検査技師5名が在籍しており、夜間・日曜祝日もオンコール体制で24時間いつでも検査対応しています。多くの研修会や学会に参加し、知識・技術の研鑽、検査の質を向上できるよう努力を重ねております。

検査に関する質問や、検査項目の読み方などお気軽に声をおかけ下さい。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました！



嘉風関が慰問に やってきました！

7月26日の大相撲名古屋場所千秋楽で自己最多の12勝を上げ、敢闘賞を受賞した嘉風関が、激闘の疲れもみせず、翌日に佐伯中央病院を慰問されました。

ロビーに約100名の方が院内外から集まり、敢闘賞受賞の報告に盛大な拍手が沸きました。

嘉風関からは「大相撲佐伯巡業の時には、自己最高の関脇で臨めるように来場所も頑張ります」と挨拶があり、その後、写真撮影や握手、サインに応じてくれ大変賑やかな会となりました。

9月に行われた秋場所では、殊勲賞と技能賞をダブル受賞の嘉風関、今後の取り組みに注目です！



合同研究発表会を 開催しました



8月1日、「小寺会・百徳会 合同研究発表会」が開催され、佐伯中央病院グループの職員 15 名が日頃の取組の成果を発表しました。

40 周年のメモリアルイヤーに相应しく、その発表内容レベルも上がっており、ますます患者様・ご利用者様の医療・介護の質が向上することが期待されます。

会の冒頭では、小寺隆元副院長が「これまでとこれから」というテーマで基調講演を行い、小寺会・百徳会の将来ビジョンを共有できた点でもすごく有意義な時間だったと思います。

次は 50 周年に向けて、職員一同歩みを進めていきたいと思っておりますので、皆様今後とも宜しくお願い致します。

8月21日・22日の2日間、大分県地域医療研修会にて、大分大学と自治医科大学の医学部学生2名が当院へ研修にきました。

2日間の研修では、医師の診察、処置、検査の学びはもちろんのこと、チーム医療を推進している看護部門やコメディカル部門の業務も見学体験してもらい、地域包括ケアシステムを実践している施設見学も行いました。

お二人とも、佐伯市の地域医療の現状に真剣に耳を傾け、「今後のためになった」と感想を述べる姿がとても心強く感じられました。

当院および米水津・鶴見両診療所では、今後も地域医療発展のため、志を持たれた医大生の研修を受け入れ、少しでも多くの学びを提供していきたいと思っております。

医大生の研修を 受け入れています



<理念>

- 一、患者様に視点をおき、心のかよう思いやりのある医療を提供します。
- 一、専門的技術を生かし、より効果的な医療を追求します。
- 一、地域と共に歩み、医療を通して地域文化の発展に貢献します。

<基本方針>

- 一、生命・人格・人権を尊重し、質の高い医療を目指します。
- 一、時代のニーズに合った医療サービスを提供します。
- 一、健康づくり、疾病予防の担い手として、地域医療に貢献します。
- 一、志高く、豊かな人間性を有する医療人の育成を目指します。
- 一、効率的な運営を行い、働きやすい職場づくりに努めます。

<患者様の権利>

- 一、良質な医療を受ける権利
- 二、選択の自由と自己決定権
- 三、他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
- 四、情報を得る権利
- 五、プライバシーを守られる権利
- 六、尊厳を守られる権利



発行元：佐伯中央病院

〒 876-0851 大分県佐伯市常盤東町 6 番 30 号
TEL : 0972-22-8846 FAX : 0972-22-8844

発効日：平成 27 年 10 月 1 日